

右の共同研究報告書の一部も参考資料(2)として本号に収められているので、併せて参照していただければ幸いである。(寺崎昌男)

三 本学には過去百年の歴史において、約四千人の教官が在籍し、大学を基盤として数多くの研究成果を上げ、近代日本学術文化の

ナ。ナ。正年支編集部は、アーリー編集部の後身と見任等かの形

ム。ム。一九二一年四月八日

設置する

アーチ形の
スチール構造

運営委員

(運
助教)

まず、確かに史料の一音に轟きこれて図書館に保管されておりま
すが、図書館に移管される前、既に散逸してしまった多くの史料の存在
を考えねば、あの五十年史の成果はありえなかつたと思われるからで
す。私どもは、この点に思いをいたすとき、私どもが関係各位の協力

の「一斗稚森守」印と、寺内親王守の墨跡等の書物を収めます。

要な文書。

小池行松関係文書 四五五点

教授小堀巖、元学生部長（名誉教授）加藤橋夫等の寄託文書がある。
なお、この一、二年、停年退官教授より勤務中の資料を寄託したい
という申し出が相次いでいる。